

令和5年度 水産業復興販売加速化支援事業

(復興水産加工業等販路回復促進指導事業及び
水産加工業等販路回復促進取組支援事業)

取組状況について



復興水産加工業
販路回復促進センター

目次

01	<u>水産業復興販売加速化支援事業について</u>	…01
02	<u>復興水産加工業販路回復促進センターの活動</u>	
	1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業	
	<u>(1) 復興水産販路回復アドバイザーによる指導実績</u>	…02
	<u>(2) セミナー開催実績</u>	…03
	<u>(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023</u>	…05
	<u>(4) 情報共有化事業</u>	…12
	<u>(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・セミナー（消費地商談会）開催実績</u>	…14
	<u>(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績</u>	…22
	2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業	
	<u>(1) 令和5年度水産加工業等販路回復促進取組支援事業 採択実績</u>	…31
	<u>(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧</u>	…32
	<u>(3) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 取組事例</u>	…39
	<u>(4) 販路回復の取組方法について</u>	…44
03	<u>お問い合わせ先</u>	…45

01 水産業復興販売加速化支援事業について

□ 事業内容

被災地の水産加工業の販路回復等のため、水産加工・流通の専門家による事業者の個別指導及び商談会・セミナー等の開催、被災地の水産加工業者等が行う販路の回復・新規開拓等の取組に必要な加工機器の整備等を支援します。

併せて、ALPS処理水による風評影響を最大限抑制し、本格的な復興を果たすため、被災地域における水産加工業の販路回復の促進、販路拡大・経営力強化と安全実証への支援、福島県内の水産消費地市場の支援を行うとともに、外食店、量販店や専門鮮魚店等での販売促進等の取組を支援します。

なお、復興水産加工業販路回復促進センターでは、当該事業のうち、以下の2つの事業を実施し、各種支援を行います。

□ 支援内容

復興水産加工業等販路回復促進指導事業

被災地の水産加工品等の販路回復に向けた「復興水産販路回復アドバイザー」による個別指導、セミナー等の開催、消費地商談会の実施、水産加工品の安全性や魅力を国内外に発信するためのプロモーション等の実施。

水産加工業等販路回復促進取組支援事業

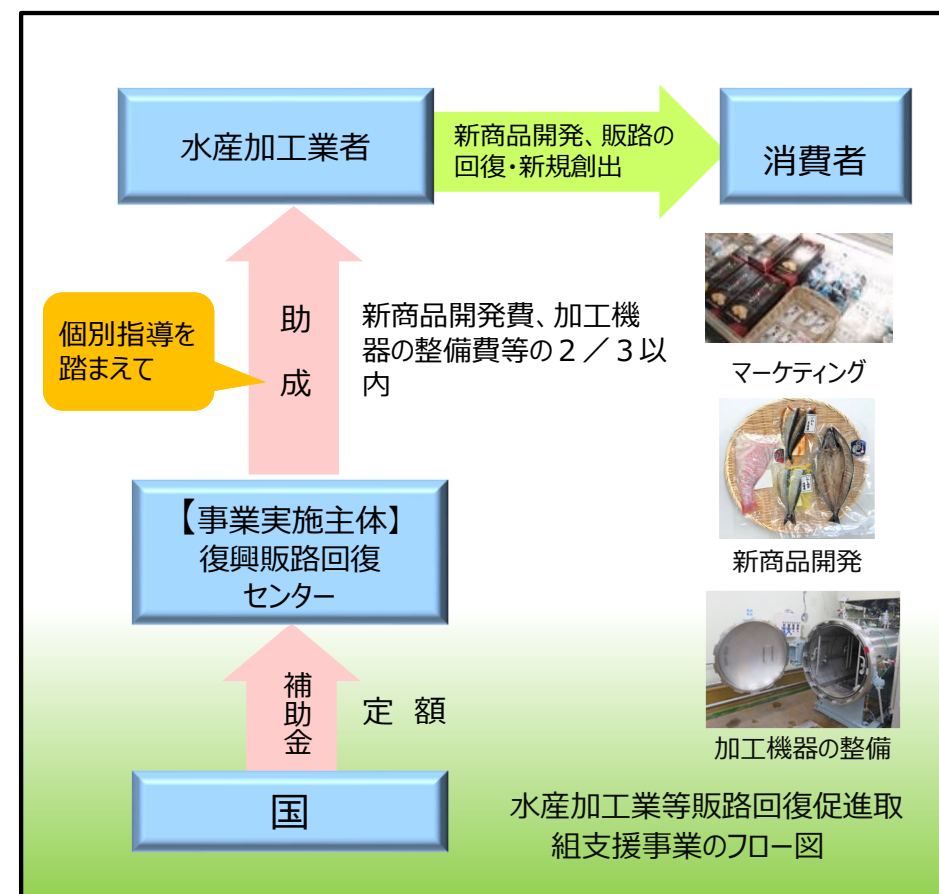
「復興水産販路回復アドバイザー」による個別指導を踏まえ、東北被災地地域の水産加工業者等が行う販路回復・新規開拓等に向けた取組に必要な加工機器の整備、マーケティングに必要な経費2/3を支援。

（本事業の実施対象被災地域：青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県及び千葉県）

□ 事業実施主体

復興水産加工業販路回復促進センター

- ・ 全国水産加工業協同組合連合会（代表機関）
- ・ （公社）日本水産資源保護協会
- ・ （一社）大日本水産会
- ・ 東北六県商工会議所連合会



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

販路回復等の取組を行おうとする被災地の水産加工業者等に対して、適切な助言、指導を行うことのできる者を復興水産販路回復アドバイザーとして任命し、指導申し込みによる方法だけでなく、アドバイザー自身が指導対象である水産加工業者等の掘り起こしをおこない、積極的に指導することにより、販路の回復・新規開拓を目指す事業。

商品開発コーディネーター、6次産業化プランナー、地域活性化支援アドバイザーなど第一線の現場で活躍する方々を復興水産販路回復アドバイザーとして任命し、販路回復に向けた様々な指導をおこなっています。

(1) 復興水産販路回復アドバイザーによる指導実績（順不同）

令和5年4月～令和6年3月末までの実績（合計138社、249件）※うち37件はオンラインによる指導

岩手県（30社）

サンコー食品株式会社
マルカ川商株式会社
一般社団法人がたつわり
株式会社オサベフーズ
株式会社シャイン
株式会社タイム缶詰
株式会社阿部長商店大船渡食品
株式会社越戸商店

株式会社宏八屋
株式会社川秀
株式会社北三陸ファクトリー
株式会社國洋
鎌田水産株式会社
岩手県産株式会社
及川冷蔵株式会社
広田湾漁業協同組合
志田海産乾物店
森下水産株式会社
東和食品株式会社

有限会社コタニ
有限会社タイコウ
有限会社宮古マルエイ
有限会社金澤水産
有限会社小が理商店
有限会社早野商店
有限会社大井漁業部
有限会社田村畜養場三陸営業所
元正栄 北日本水産株式会社
岩手アカモク生産協同組合
蛸ノ浦金匠がき部会

宮城県（54社）

マルヤ水産株式会社
ミノワーズ株式会社
株式会社オサベフーズ
株式会社カネカシーフーズ
株式会社カネシゲ高嶋商店
株式会社カネダイ
株式会社かわむら
株式会社トヨタフーズ
株式会社ハイブリッドラボ
株式会社マルカ高橋水産
株式会社マルケン菊地商店
株式会社モリヤ
株式会社ヤマナカ
株式会社塩釜水産食品
株式会社海幸
株式会社海心
株式会社丸ほ保原商店

株式会社丸荒
株式会社及新
株式会社高浜
株式会社三陸オーシャン
株式会社鐘崎
株式会社齊吉商店
株式会社中華高橋水産
株式会社渡辺海苔店
株式会社東北トクスイ
株式会社布施商店
株式会社武田の笹かまぼこ
株式会社木の屋石巻水産
株式会社友心
丸又蒲鉾製造有限会社
気仙沼ほてい株式会社
五光食品株式会社
合同会社ハッピーオーシャン

山徳平塚水産株式会社
水月堂物産株式会社
水野食品株式会社
水野水産株式会社
石森水産
仙台漬魚株式会社
大興水産株式会社
大弘水産株式会社
瀧口商店
富士國物産株式会社
末永海産株式会社
湊水産株式会社
有限会社かみたいら
有限会社マルキチ阿部商店
有限会社ムラカミ
有限会社ヤマコ佐勇水産
有限会社丸繁商店
有限会社片倉商店
理研食品株式会社
株式会社YAMATO

青森県（16社）

ぜんぎよれん八戸食品株式会社
株式会社いわけ
株式会社エスディハチカン
株式会社ディメール
株式会社ともや
株式会社マルイチ水産LTD
株式会社マルヌシ

株式会社丸石沼田商店
株式会社中村漁業部
株式会社藤井商店
三富産業株式会社
宝成食品株式会社
有限会社フロンティア食品
有限会社マルコー田中商店
有限会社静岡屋
合同会社マルカネ

福島県（9社）

株式会社マルリフーズ
株式会社貴千
株式会社小島門吉商店

株式会社馬目商店
株式会社夕月
合資会社カネキ商店
青木食品工業有限会社
有限会社いわき水産振興
有限会社おのづか食品

茨城県（18社）

いりまん水産
かけじるし商店
カネチョウ水産
ダイカツ水産株式会社
まるさ商店

まるむら商店
やまに商店（村山水産）
やまほし商店
株式会社カネト
株式会社ヤマシ

株式会社谷藤水産
株式会社島田商店
株式会社伴助
川崎水産有限会社
有限会社にんべん
有限会社マルイチ仙台屋商店
有限会社榎村水産
有限会社粉長商店

千葉県（11社）

株式会社イリヤマサ加瀬商店
株式会社カネジヨウ大崎

株式会社ヤマハイフーズ
株式会社兆星
丸三水産株式会社
松岡水産株式会社
田原罐詰株式会社

有限会社まるしち水産
有限会社ヤマワカ水産
有限会社大福商店
有限会社明石水産

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(2) セミナー開催実績

■ セミナー実施実績

令和5年度は3月末までに、25回のセミナーを実施しました。

開催日	内容	開催場所	開催日	内容	開催場所
7月5日	輸出で勝負!! 水産事業者の海外取引先との出会い方と活かし方	八戸市	9月26日	海外輸出ノウハウ・水産コーシャ（ユダヤ教徒） 欧米輸出・インドネシアBPJPHハラル認証セミナー 1、コーシャの基礎 2、海外輸出の基礎と実際の応用スキルについて 3、欧米輸出・インドネシアBPJPHハラル認証	郡山市
7月6日	輸出で勝負!! 水産事業者の海外取引先との出会い方と活かし方	宮古市			
7月12日	輸出で勝負!! 水産事業者の海外取引先との出会い方と活かし方	大船渡市			
7月13日	輸出で勝負!! 水産事業者の海外取引先との出会い方と活かし方	気仙沼市	9月27日	東京一番フーズ／長崎ファームのサステナブル戦略	郡山市
7月14日	輸出で勝負!! 水産事業者の海外取引先との出会い方と活かし方	石巻市	9月27日	東北の水産加工品の可能性を探る	郡山市
7月19日	BYR(バイヤー),MD(マーチャンドライザー)のもとめているもの	塩釜市	9月27日	「復興」×「水産業を取り巻く環境の変化」にかかる現状と今後の対策 1、はじめに 2、復興に関する現状 3、海洋環境の変化による影響 4、各社の取り組みについて 5、多魚種漁獲漁業、海洋環境の変化に対する展望	郡山市
7月19日	BYR(バイヤー),MD(マーチャンドライザー)のもとめているもの	仙台市			
7月20日	バイヤーはどんなところを見ているのか？ 商品開発のポイント	いわき市			
7月24日	バイヤーはどんなところを見ているのか？ 商品開発のポイント	福島市	2月21日	「関西人が知らないムラサキイカの世界」 「売れてますムラサキイカ!!」 「アカイカ研究前線」	大阪市
7月25日	シェフから見た食材の選定ポイントとシェフ・外食と連携したブランド力の高め方	神栖市	2月21日	流通と店舗の取扱いを改革することで味が変わる・新ブランド「ほやの極み」の事例	大阪市
8月23日	高鮮度で美味しい国産ムラサキイカのご紹介 1、ムラサキイカ漁業の概要 2、市場からみるムラサキイカの現状 3、ムラサキイカの利用加工について 4、開発調査センターの取組	江東区	2月22日	福島第一原発事故後の水産物の検査について	大阪市
8月25日	福島第一原発事故御の水産物の検査について	江東区	2月22日	日本の水産は東南アジア等イスラム市場で爆発!! 2025大阪関西万博は大阪のWチャンス!! 1、無料で始められる海外営業部門のアウトソーシングなら 2、水産業界のハラルビジネス戦略／南西アジアの今 3、ハラルビジネスSNSマーケティング 4、水産品・水産加工品を輸出入する際の注意点	大阪市
8月25日	世界初！鮮度管理基準を持ったほやのブランド「ほやの極み」のできるまで	江東区			
8月25日	ハラル&コーシャ輸出セミナー2023 1、海外輸出の基礎と実際の応用スキルについて 2、コーシャの基礎 3、BPJPHハラル認証 4、2023年これからのハラルビジネス戦略	江東区			
9月26日	ALPS処理水の処分に係る対策と今後の取組について 福島第一原発事故後の水産物の検査体制について	郡山市	3月6日	顧客の求める商品開発	仙台市
9月26日	地域に寄り添う水産DX～漁業から水産加工までIT支援が描く未来 1、水産×ITによる水産業の活性化について 2、水産に関係する開発研究 3、水産加工業のDX化に向けた取組み 4、パネルディスカッション	郡山市			

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(2) セミナー開催実績

■ セミナー実施例

「BYR(バイヤー),MD(マーチャンドライザー)の求めているもの」

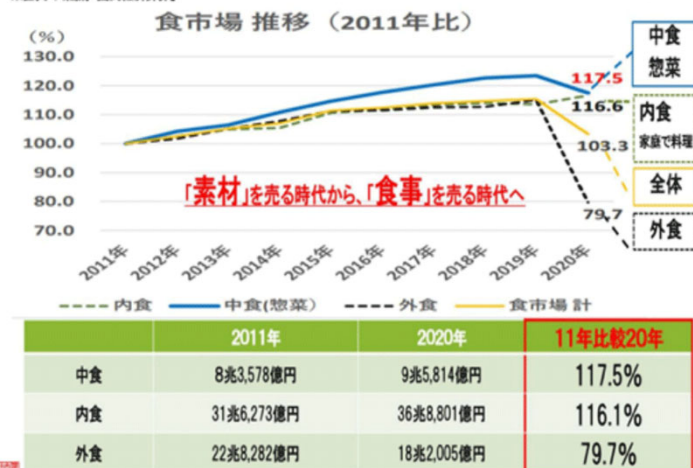


講師
株式会社 ヨークベニマル 鮮魚部 マーチャンドライザー
加藤 大棋 氏

現在のマーケットの状況

食のマーケットは、外食が苦戦している中、内食（家庭料理）、中食（惣菜等）は伸長しています。ヨークベニマルでも、ここ3年ほどは醤油や砂糖等、基礎調味料の売上が減少していましたが、最近では回復傾向です。そして、技術改良により美味しさと利便性が増した冷凍食品も近年マーケットが拡大しています。さらに、関東エリアではヤオコー様等、惣菜が強いスーパーや精肉の強いスーパーが好調になっています。

※出典：内閣府「国民経済計算」



展示会での商談成功のカギ「商談時に何を知らなければならないのかを理解する」

展示会に来るバイヤーで、明確な目的を持ってくる方は3割もいません。

具体的な商品イメージをもって来場しているのか、新規取引先の開拓なのか、情報収集のためなのか、バイヤーがどのような目的を持っているかを見極めることも大切です。

以下に目的別のバイヤーの傾向や対応方法をまとめました。

1. 通常のプロパー商品を探めている

漠然とプロパー商品を探す人、情報収集だけの人もいます。プロパー商品を探めていると思ったら、このバイヤーは捕まえてください。このタイプは商品・供給義務を守ってもらえ、新規取引先を求める傾向があります。うまくいけば長く付き合える、良いお客様となる可能性があります。

2. フェアや限定特売品を探めている

フェア等で数量、期間限定で瞬発的に売る商品を探めている場合、もし条件が合わなかったら話を切り上げて良いと思います。瞬発的には商品が動きますが、その後は続かない傾向があります。

3. こだわり品、安い品

こだわり品や安い品は要注意です。こだわりは、お互い理解して初めて成立します。自分としては譲れないところでも、お客様には関係ない場合もあり、相手のこだわりを探って商談をしてください。また、安さはそれぞれで異なります。相手がどれくらいのグレードの品を扱い、どんな価格帯なのかを理解していないとうまくいきません。

4. トレンド

健康や簡便食材、認証関連、賞味期限延長等の情報を集めているタイプのバイヤー。新しい技術についての提案があれば、商品はその時に決まらなくても、のちに「あそこならあるかもしれないから覚えておこう」と一度商売してみようと思います。商品だけではなく、情報は商談時に有利に働きます。バイヤーは良い情報をくれたメーカーのことは忘れません。

▶ ポイント① BYR・MDは商品だけでなく、企業・人も見えています

・原料、加工、製品化の技術はもちろん、企業精神、自分がどんな人間でどんなことを考えている人間かを伝え、また伝えてもらい、お互いを理解しましょう。

▶ ポイント② MEL、ASC、MSC、ISO、HACCPを理解しましょう

・認証があれば高く買ってくれるのか？この話をよくされます。認証は未来の標準なので、認証がなければ買いたたかなくては行けなくなる時代が逆になります。5年先の社会標準を、今の自社標準にしましょう。

▶ ポイント③ 新商品・新しい文化・カルチャーを創りましょう

・新しい商品、オリジナルな商品、オリジナルな取り組み、SDGs等の新たな取り組みをおもいっきりしましょう。新たな領域に儲けは眠っています・・・が、既存品のブラッシュアップは必須です。

▶ ポイント④ 商品・人を育てましょう

自社の看板商品・圧倒的差別化商品をつくること、自社の強みを理解していかし、新たな時代を切り開く自分の後をまかせられる人材を育てましょう。後任が見えない企業には不安を感じます。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

■ 概要

東日本大震災被災地域の水産加工業の復興と、水産加工品の情報発信・販路の回復・開拓を目的として、「～繋がる・繋げる展示・オンライン商談会～」をテーマに掲げ、“オンライン”と“リアル”の両方を兼ね備えた“ハイブリット型商談会”として開催することで、水産物に関心をもつ全国各地の食品バイヤーへ向け、東北・常磐の水産物の魅力をひろく発信。

青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の加工業者等によるブース展示、各種セミナー、個別商談会が行われ、復興水産販路回復アドバイザー相談コーナーなどが設けられました。

① リアル展示商談会

催 事 名	東北復興水産加工品展示商談会2023 ～リアル展示商談会～
会 期	2023年9月26日(火) 10:00～16:00、27日(水) 09:30～16:00
会 場	ビッグパレットふくしま（福島県郡山市南二丁目52番地）
主 催	復興水産加工業販路回復促進センター
後 援	水産庁／復興庁／中小企業庁／日本商工会議所／株式会社東日本大震災事業者再生支援機構／ 青森県／岩手県／宮城県／福島県／茨城県／千葉県／郡山市
特 別 協 力	一般社団法人全国スーパーマーケット協会／一般社団法人日本百貨店協会／宮城県商工会連合会
出 展 者 数	青森(11社)、岩手(19社)、宮城(69社)、福島(14社)、茨城(7社)、千葉(4社)、 合計124社 *2022年 89社
来 場 者 数	3,698名 *2022年 3,803名
招 聘 バ イ ヤ ー 数	招聘バイヤー数：118社、商談数：886件 *2022年 招聘バイヤー数：47社、商談数：365商談
個 別 商 談 会	当日判定結果：成立171件(19.3%)、継続637件(71.9%)、不成立78件(8.8%) 2次判定結果：成立182件(20.5%)、継続247件(27.9%)、不成立457件(51.6%)

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

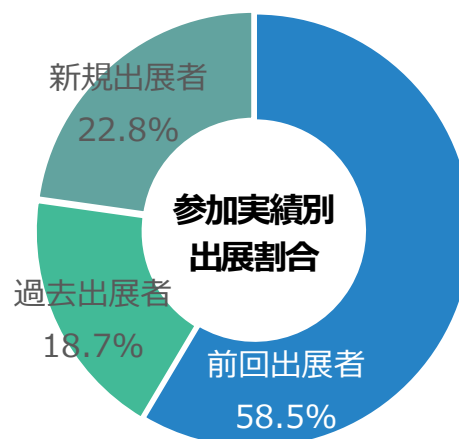
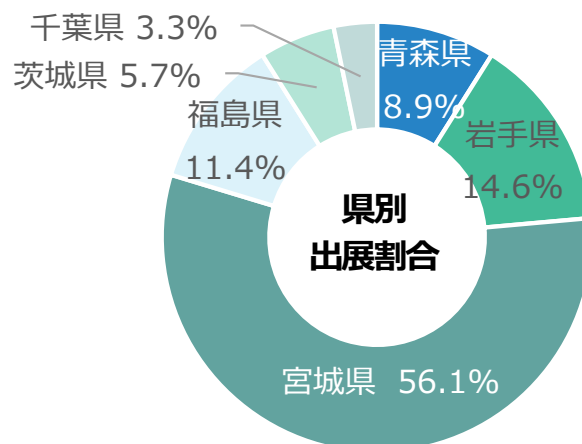
(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

① リアル展示商談会

■ 開催風景



■ 出展者



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



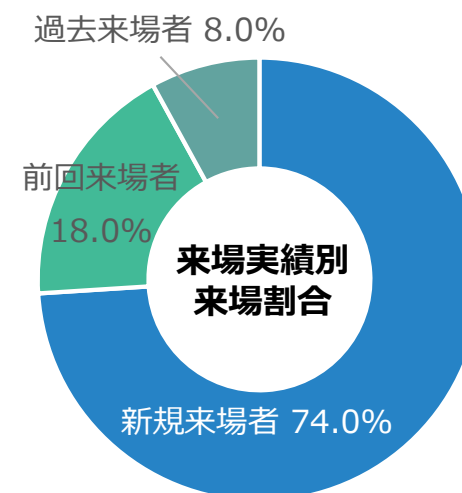
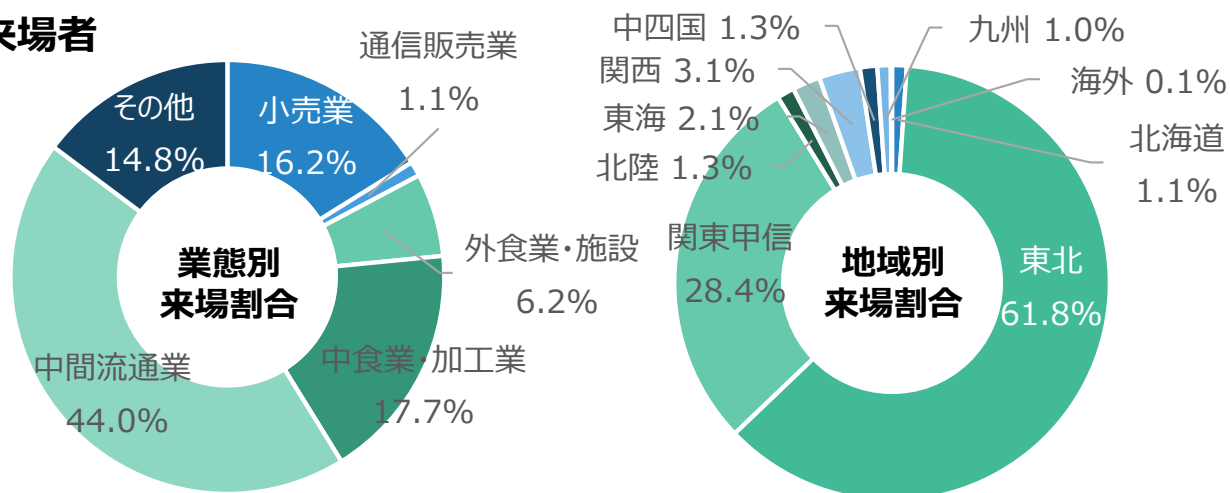
復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

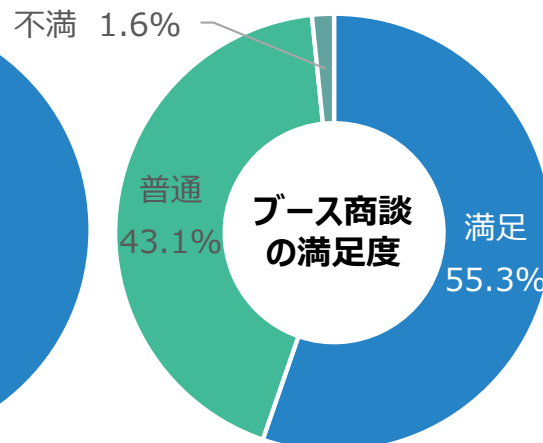
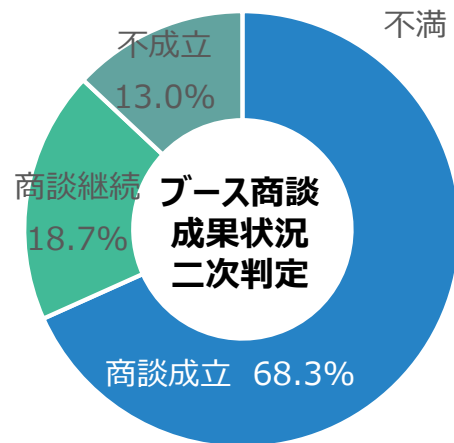
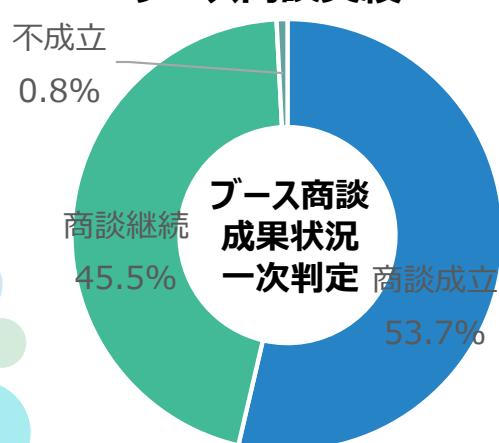
① リアル展示商談会

■ 来場者



■ ブース商談実績

* 出展者アンケートを基に作成



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



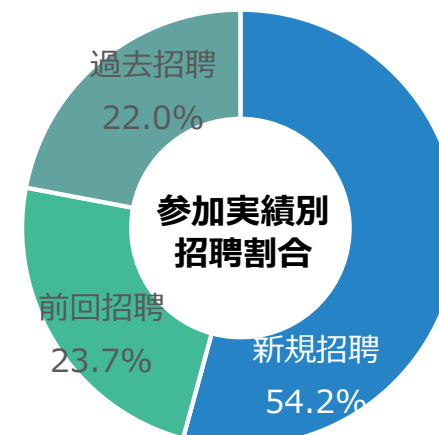
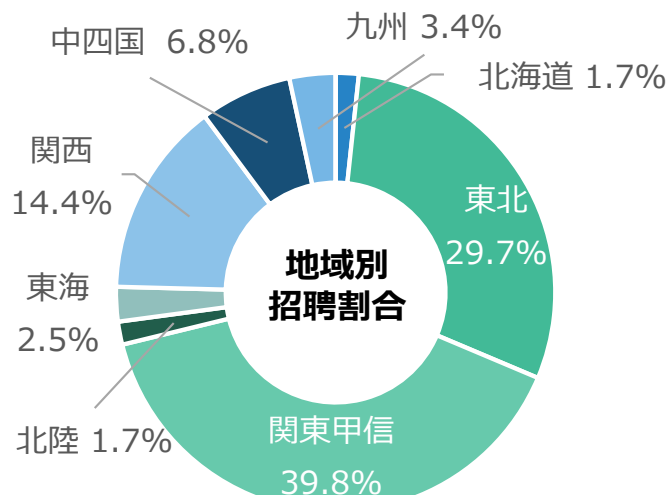
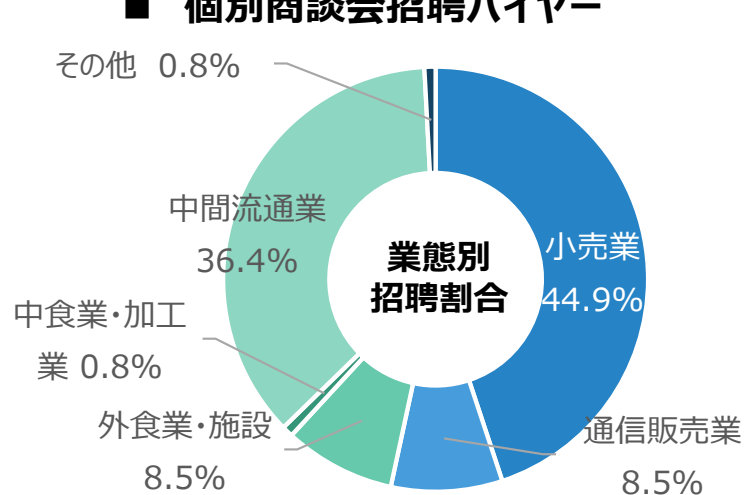
復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

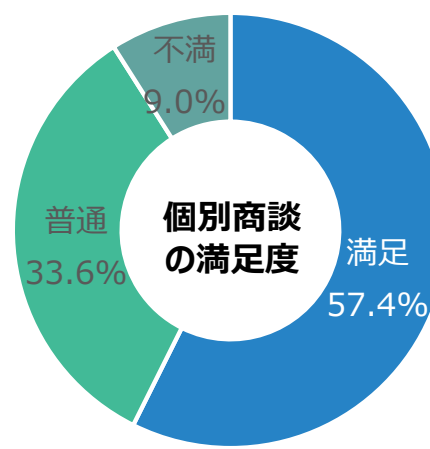
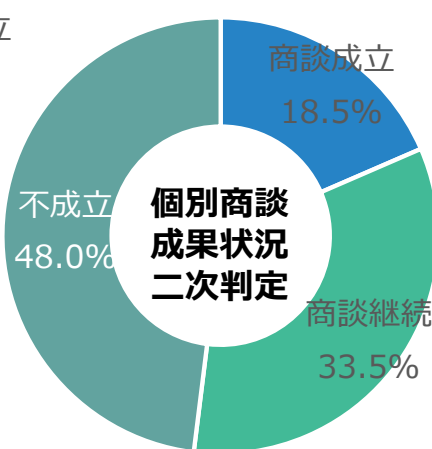
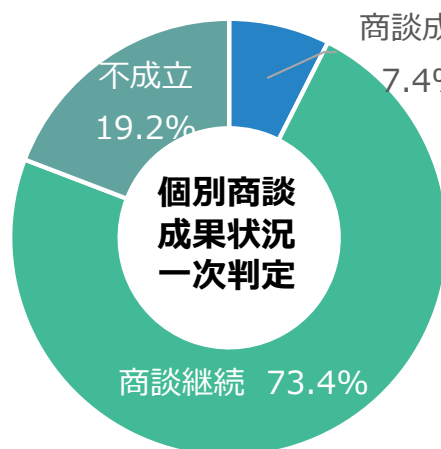
① リアル展示商談会

■ 個別商談会招聘バイヤー



■ 個別商談実績

* 出展者アンケートを基に作成



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



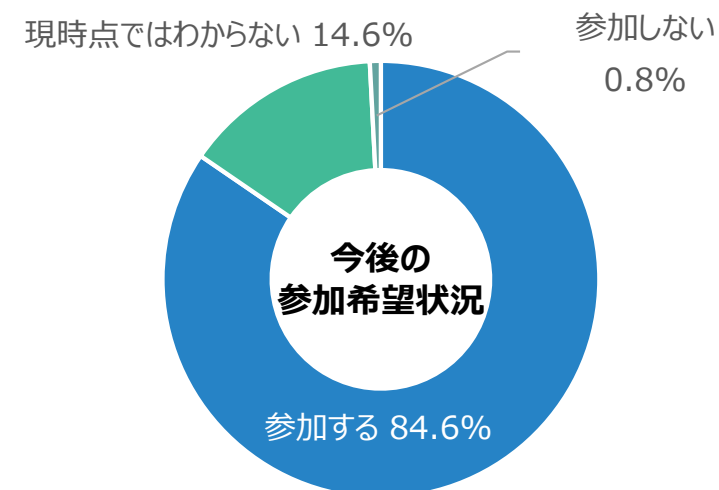
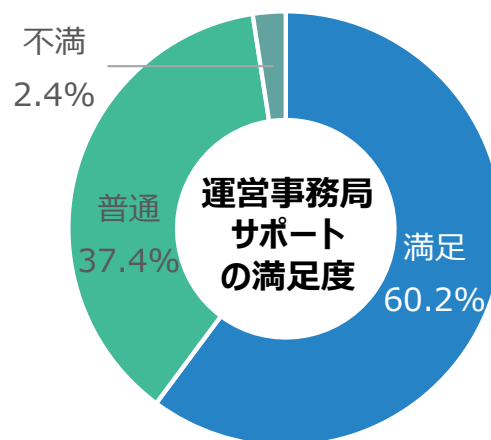
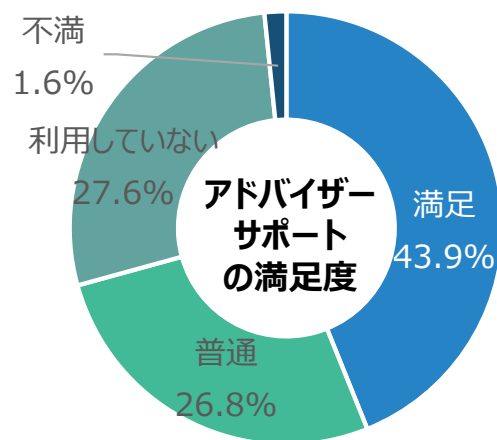
復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

① リアル展示商談会

■ 商談会全体について * 出展者アンケートを基に作成



実感できた効果（複数回答可）

新規取引先を開拓できた	73.0%
他出展者との連携・情報交換ができた	61.0%
新商品PRの機会につながった	58.0%
従来の取引先との取引が増加した	50.0%
商談スキルが向上した	28.0%
展示スキルが向上した	20.0%
アドバイザーによる指導を受けられた	16.0%
セミナーによる情報収集・勉強ができた	6.0%

良かった点

- ・ サポート体制は非常に満足。
- ・ アドバイザーの方や事務局の皆様のおかげで、良い商談ができた。
- ・ 以前担当いただいたアドバイザーに訪問いただき、継続して気に掛けていただいております。
- ・ 東京の展示会と比べて、探していってくださる方も多かったのが、質がいい展示会だと感じた。

課題点

- ・ 出展マニュアルなどが結構直前だった。もう少し早いと良い。
- ・ やり取りの量が多く、もっと簡素化していただきたい。
- ・ 参加人数が少なかった為、個別商談時はブースが空いてしまい、サポートをお願いしたが、全く機能せず無人状態になった時間帯もあった。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

② オンライン商談会

催 事 名	東北復興水産加工品展示商談会2023 ～オンライン展示商談会～
会 期	前半：2023年8月21日(月)～9月8日(金) 後半：2023年10月10日(火)～11月30日(木)
商 談 方 法	オンラインツール（ZOOM 等）
主 催	復興水産加工業販路回復促進センター
後 援	水産庁／復興庁／中小企業庁／日本商工会議所／株式会社東日本大震災事業者再生支援機構／ 青森県／岩手県／宮城県／福島県／茨城県／千葉県／郡山市
特 別 協 力	一般社団法人全国スーパーマーケット協会／一般社団法人日本百貨店協会／宮城県商工会連合会
出 展 者 数	青森(4社)、岩手(5社)、宮城(16社)、福島(2社)、茨城(3社)、千葉(1社)、合計31社 (商談実施者) * 2022年 11社、2019年 52社
招 聘 バ イ ヤ ー 数	招聘バイヤー数：20社、商談数：45件 * 2022年 招聘バイヤー数：21社、商談数：112商談
個 別 商 談 会	当日判定結果：成立8件(17.8%)、継続36件(80.0%)、不成立1件(2.2%) 2次判定結果：成立9件(20.0%)、継続21件(46.7%)、不成立15件(33.3%)

■ 開催風景



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



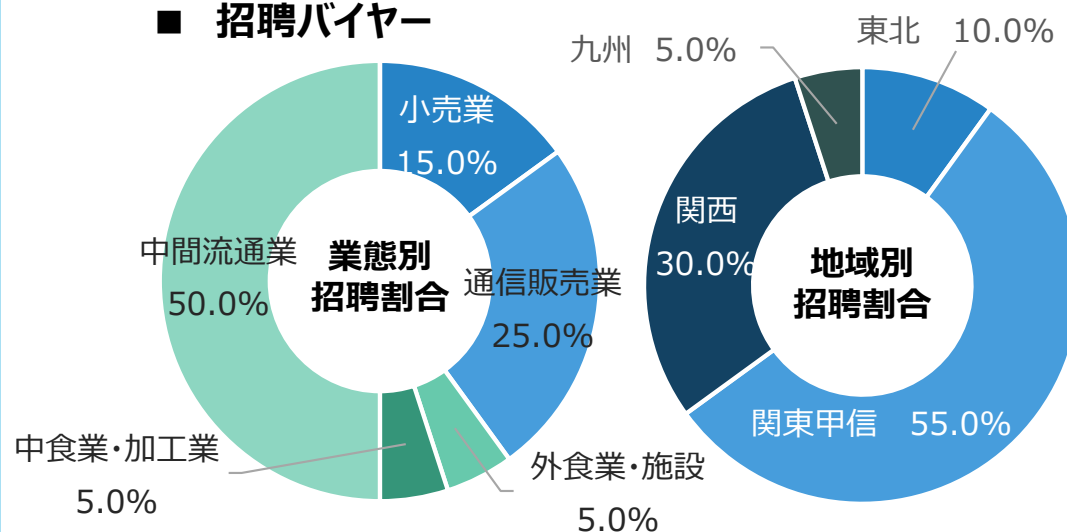
復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(3) 東北復興水産加工品展示商談会2023

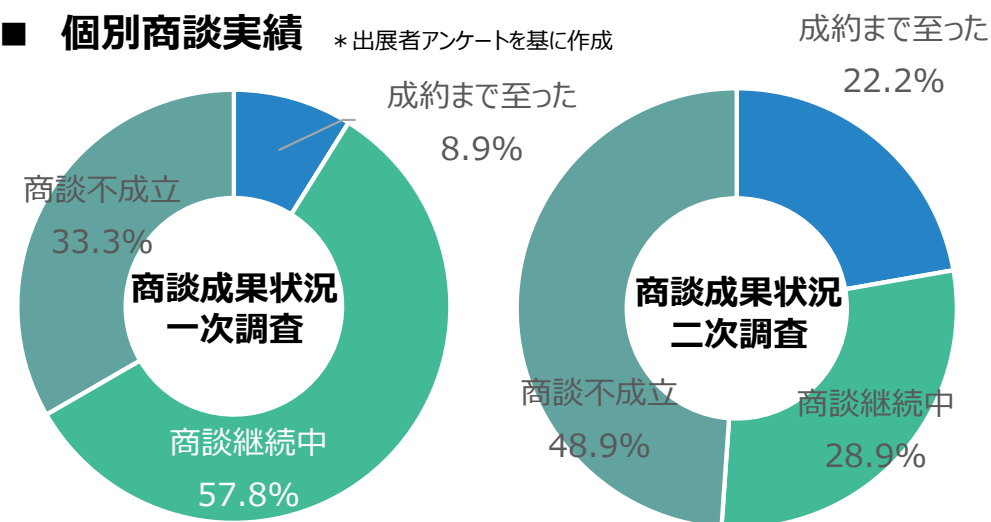
② オンライン商談会

■ 招聘バイヤー



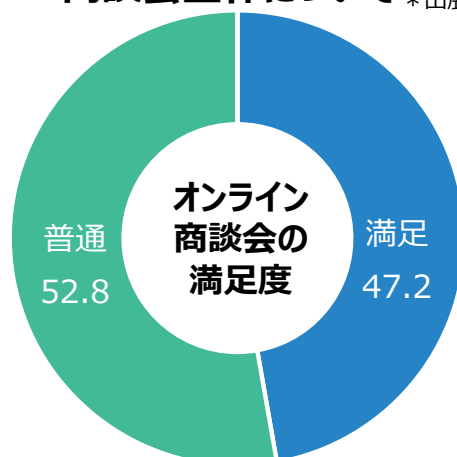
■ 個別商談実績

* 出展者アンケートを基に作成



■ 商談会全体について

* 出展者アンケートを基に作成



良かった点

- ・ 毎度事務局が進行してくれるので、スムーズにオンライン商談を進めることができ、ありがたい。
- ・ 関西地区の会社とはなかなかリアルで会えないのでオンラインでの商談は良かったと思う。
- ・ 遠隔地のため、なかなかお会いできない方と商談できて、良い機会をいただいた。
- ・ 商品がマッチングしていたので商談はやりやすかった。

課題点

- ・ 初回の商談としては、30分という時間が少し長かったように思う。
- ・ 事前に先方のターゲットプライスや購入目的がわかればよりスムーズに交渉が進むと感じた。
- ・ 商談成立には商品のマッチングだけでなく商流のマッチングが重要だと感じた。
- ・ 希望する商品と、どのような販路を検討しているか事前情報で分かるといい。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(4) 情報共有化事業

① 復興水産加工業販路回復促進センター ホームページ

■ 概要

復興水産加工業販路回復促進センターでは、支援を行った企業情報、支援事業の応募、セミナー・展示会情報や販路開拓に関する情報等をいつでも見ることができるようホームページを運営しています。今年度よりリニューアルをおこない、見たい情報により簡単にアクセスできるようになりました。

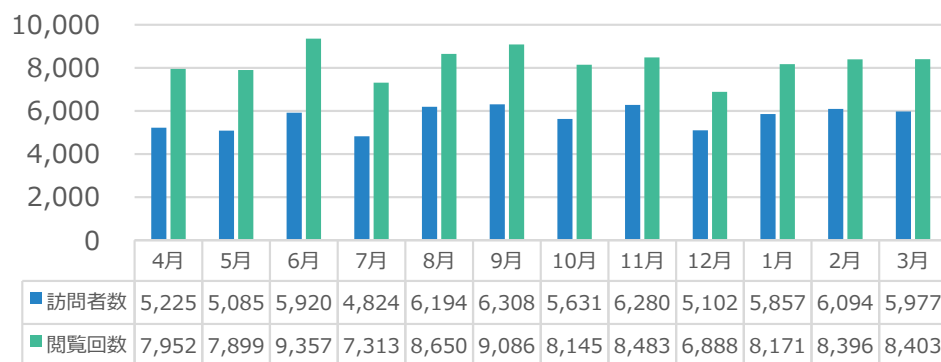
東北被災地域で頑張る水産加工業者等をレポートする「企業紹介」で取材先には自社でHPを持たない事業者もいることから、どんな会社であるのかを知っていただくのにもよききっかけとなる場であり、閲覧数も高く推移しています。

コンテンツ別アクセス数ランキング
(令和5年4月～令和6年3月)

順位	コンテンツ	訪問者数	閲覧回数
1	企業紹介	48,053	62,483
2	助成支援事業について	3,567	6,877
3	アドバイザー指導	2,465	3,794
4	展示会・セミナー レポート	2,436	3,345
5	展示会・セミナー 開催情報&レポート	1,111	2,583

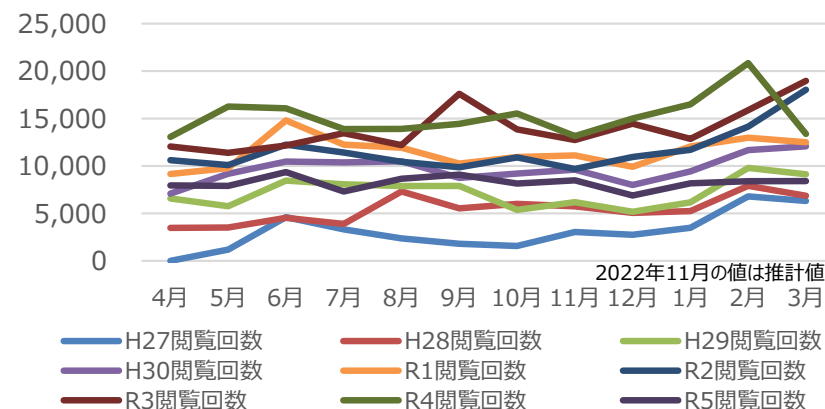
※ 数値はPC・スマホ・タブレットからのアクセスの合計値

訪問者数及び閲覧回数の月別推移
(令和5年4月～令和6年3月)



※ 数値はPC・スマホ・タブレットからのアクセスの合計値

閲覧回数推移(H27～R5)



2022年11月の値は推計値

※ 数値はPC・スマホ・タブレットからのアクセスの合計値

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(4) 情報共有化事業

② UMIUMA (うみうま) ホームページ

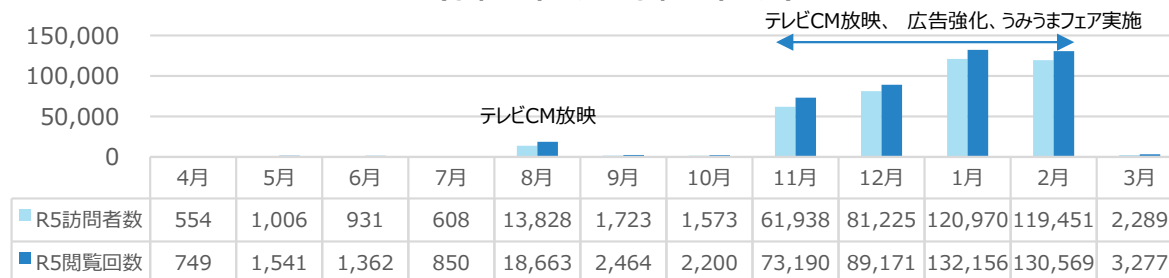
■ 概要

UMIUMA (うみうま) は、主に一般消費者に向けて、東日本大震災の被災地域である三陸・常磐の水産加工品に関する情報、イベント、キャンペーン、水産加工品を使ったレシピ、通販、産地や生産者などの情報をまとめたポータルサイトです。テレビCM放映期間や、うみうまフェア（飲食店等とのコラボ企画）などのイベント期間中は月間で10万PVを超えるなど特に注目度が高くなっています。今後もこれまで以上にPRを強化し、三陸・常磐の水産加工品を身近に感じていただけるようなコンテンツの拡充を続けていきます。



訪問者数および閲覧回数の月別推移

(令和5年4月～令和6年3月)



※ 数値はPC・スマホ・タブレットからのアクセスの合計値

コンテンツ別アクセス数ランキング

(令和5年4月～令和6年3月)

順位	コンテンツ	訪問者数	閲覧回数
1	Chef's RECIPE @HOME	8,864	10,439
2	加工品紹介	5,222	10,191
3	うみうまフェア	7,355	8,564
4	UMIUMAとは	3,464	4,380
5	うみうまの旅	2,252	2,609

※ 数値はPC・スマホ・タブレットからのアクセスの合計値

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 概要

震災で失った販路を回復するには、水産加工業者が自ら被災地の水産物・水産製品の安全性を商談・説明会等の場で説明して理解を得ること、消費地それぞれのニーズを把握して臨むことが重要です。そこで、被災地水産物の安全性と大消費地のニーズを学ぶ講習会を開催し、学習したことを実践する場として大消費地でのセミナーを開催しました。

■ 開催実績 ①

東京都江東区

加工食品EXPO

開催日

令和5年6月20日～23日

開催場所

東京ビッグサイト

参加者数

14社（青森2社、岩手1社、宮城9社、福島1社、茨城1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、販路開拓のための消費者ニーズに関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

- ・ 昨年に続き、今年も出展したが、昨年よりも名刺交換数が多い印象。
- ・ 海外のお客様も多く見られ、輸出への需要も強く感じられた。



講習会（6月20日）



セミナー（6月21日～23日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 開催実績 ②

愛知県名古屋市

東海スーパーマーケットビジネスフェア

開催日

令和5年7月18日～7月20日

開催場所

ポートメッセなごや

参加者数

16社（青森3社、宮城10社、福島1社、茨城2社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、バイヤー視点から見た商品開発及び商談のアドバイスに関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

- ・これまで東海地区に販路がなかったが、自社商品の評価も良く、期待が持てる。
- ・今回初めての参加だが、成約が期待される商談も多く、ある程度成果が見込めた。



講習会（7月18日）



セミナー（7月19日～7月20日）

■ 開催実績 ③

東京都江東区

国際和食産業展

開催日

令和5年8月1日～4日

開催場所

東京ビッグサイト

参加者数

11社（岩手2社、宮城8社、福島1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、商標・特許と消費者ニーズを踏まえた商品開発に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

- ・色んな業界の展示会が併設されていて、いつもと違う客層とのつながりが出来た。異業種の若い男女が多数寄っていただき、忸度ない感想を伺え、参考になった。



講習会（8月1日）



セミナー（8月2日～4日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 開催実績 ④

東京都江東区

ジャパン・インターナショナル・シーフードショー

開催日

令和5年8月22日～25日

開催場所

東京ビッグサイト

参加者数

20社（青森3社、岩手4社、宮城11社、福島1社、茨城1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、国内・海外の販路獲得に向けた準備と訴求ポイントに関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

コロナの影響もだいぶ薄れ、活気のある展示商談会に戻った印象。バイヤーも積極的な試食・商談してくれる。水産バイヤーが対象であることから、商談がかなりスムーズ。



講習会（8月22日）



セミナー（8月23日～25日）

■ 開催実績 ⑤

大阪府大阪市

フードストアソリューションズフェア

開催日

令和5年9月5日～7日

開催場所

インテックス大阪

参加者数

13社（岩手5社、岩手1社、宮城5社、茨城2社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、地域産品が狙うべき市場の特徴と資料作成のポイントに関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

・ 販路に関西方面にまで広げられる期待が持てる。名刺交換したバイヤーから当日の夜にサンプル依頼やメール連絡が多数あり、バイヤーの行動が早いイメージ。



講習会（9月5日）



セミナー（9月6日～7日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 開催実績 ⑥

東京都江東区

FOOD STYLE Japan

開催日

令和5年9月12日～14日

開催場所

東京ビッグサイト

参加者数

10社（青森1社、岩手2社、宮城5社、福島1社、茨城1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、アフターコロナでの販売動向の変化と商品の提案方法に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

業務筋との商談が多く、沢山の収穫があった。
コロナ時より名刺交換も見積依頼も増え、ここ3年間で1番多く出会いの機会があった。



講習会（9月12日）



セミナー（9月13日～14日）

■ 開催実績 ⑦

北海道札幌市

観光・ホテル・外食産業展HOKKAIDO

開催日

令和5年10月17日～19日

開催場所

アクセスサッポロ

参加者数

12社（青森1社、岩手2社、宮城6社、福島2社、千葉1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、展示会参加においての注意点に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

- ・初めての北海道での展示会だったが、反響もあり有意義だった。
- ・地場食材へのこだわりが強いが、提案の仕方によっては扱ってくれるようにも思えた。



講習会（10月17日）



セミナー（10月18日～19日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 開催実績 ⑧

新潟県新潟市

フードメッセinにいがた 2023

開催日

令和5年11月7日～10日

開催場所

朱鷺メッセ

参加者数

11社（青森3社、岩手2社、宮城5社、茨城1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、新潟における水産物の流通事情に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

北関東や信州の取引先との商談も多く、今後新潟地区のみならず多方面での商談が可能となり、間口が広がった。来場者数が昨年に比べて多くて良かった。



講習会（11月7日）



セミナー（11月8日～10日）

■ 開催実績 ⑨

福岡県福岡市

FOOD STYLE Kyushu 2023

開催日

令和5年11月13日～15日

開催場所

マリメッセ福岡

参加者数

12社（青森2社、岩手4社、宮城4社、福島1社、千葉1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、昨今におけるバイヤーや消費者の動向に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

- ・ 商売に対して前向きな方々が多いと感じた。
- ・ 毎回来場者の質がとても良い。関西からも来場者があり、出展の意義はとて大きい。



講習会（11月13日）



セミナー（11月14日～15日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 開催実績 ⑩

東京都豊島区

第9回居酒屋JAPAN東京

開催日

令和6年1月16日～18日

開催場所

池袋サンシャインシティ

参加者数

10社（青森3社、岩手1社、宮城4社、茨城1社、千葉1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、アフターコロナでの飲食店業界の現状と営業方法に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

来場者の職種がはっきりしていてやりやすかった。
普段接点の無い業界だったので、非常に勉強になった。



講習会（1月16日）



セミナー（1月17日～18日）

■ 開催実績 ⑪

大阪府大阪市

FOOD STYLE Kansai 2023

開催日

令和6年1月23日～25日

開催場所

インテックス大阪

参加者数

13社（青森2社、岩手2社、宮城7社、福島1社、茨城1社）

講習会内容

被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、魚介類の消費状況と販路回復に向けた提案方法に関する講習を実施しました。

セミナー内容

加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。

参加した水産加工業者の声

- ・興味を持ってブースにお越しいただける人が多く感じた。
- ・購買意欲の高さが印象的だった。



講習会（1月23日）



セミナー（1月24日～25日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・セミナー（消費地商談会）開催実績

■ 開催実績 ⑫

千葉県千葉市	スーパーマーケット・トレードショー		
開催日	令和6年2月13日～16日	開催場所	幕張メッセ
参加者数	24社（青森2社、岩手2社、宮城13社、福島4社、茨城2社、千葉1社）		
講習会内容	被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、クロスMDの効果とバイヤー目線の商品提案の重要性に関する講習を実施しました。		
セミナー内容	加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。		
参加した水産加工業者の声	全国から量販店のバイヤーがたくさん来ており、充実している展示会だった。さすがSMTSなので様々なジャンルのバイヤーが来場していると感じた。		



講習会（2月13日）



セミナー（2月14日～16日）

■ 開催実績 ⑬

大阪府大阪市	シーフードショー大阪		
開催日	令和6年2月20日～22日	開催場所	ATCホール（アジア太平洋トレードセンター内）
参加者数	20社（青森4社、岩手2社、宮城10社、福島2社、茨城1社、千葉1社）		
講習会内容	被災地水産物の安全性について詳しく説明するために必要な知識として、被災地で実施している放射性物質調査に関する講習を、また、消費者に選ばれるための商品開発に関する講習を実施しました。		
セミナー内容	加工業者が講習会で学んだことを活かし、現地水産関係者等に対して商品の安全性の取組みに係る情報発信を行うと共に、消費地の反応やニーズを把握しました。		
参加した水産加工業者の声	・ 昨年参加した際も感じたが、どこの地域よりも商談スピードが早いと感じた。 ・ 地方開催よりも客層が厚く感じた。		



講習会（2月20日）



セミナー（2月21日～22日）

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(5) 被災地水産物流通利用促進事業 講習会・消費地商談会 開催実績

■ 水産物の安全性に関する講習会の例

「福島第一原発事故後の水産物の検査体制について」



講師
水産庁 研増殖推進部 研究指導課
課長補佐 中山 洋輔 氏

本格操業に向けた取組

東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から福島県内での全ての沿岸漁業・底引き網漁業を自粛。その後、平成26年6月から出荷制限のない魚種の試験操業販売が始まりました。令和3年4月からは本格操業へ向けた移行期間と位置づけ、現在福島県では水揚げの拡大を図っています。

この措置で、平成22年は約2.6万トンだった水揚げ量は操業自粛中に一番少ない時で122トン（平成24年）にまで落ち込みましたが、令和4年には5,600トンとなり約21.6%まで回復しています。

福島産魚介類の放射性セシウムの検査体制

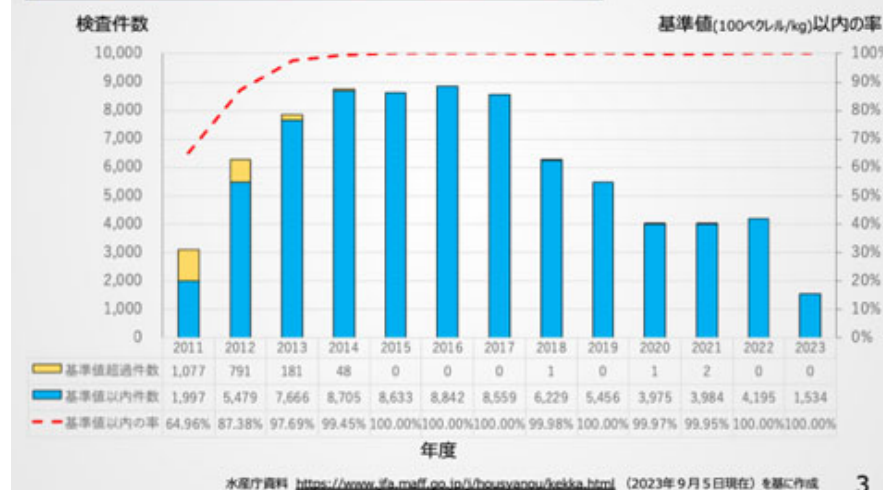
現在、食品における放射性セシウム検査は、福島県と漁協の二重体制で臨んでいます。福島県では四半期ごとに、出荷制限魚種も含めて実施。国の基準値100ベクレル（以下Bq）/kgを超えた場合には出荷制限され、市場には出ません。基準値を安定して下回ったことが確認されれば出荷制限を解除します。

漁協の自主検査は、水揚げごとに出荷予定の全魚種に実施。基準値を国の半分とし、上回ると出荷自粛し、規制値を安定して下回ったことが確認されれば再開します。

基準値を上回ったのは2015年以降では4例のみで、2017年度以降は99%が基準値の1割以下となっています。出荷制限魚種で現在残っているのはクロソイのみです。当初40種ほどが制限されましたが、海の魚は放射性セシウムを排出する機能を持っていたり、事故後に生まれた魚も増えたりと、徐々に減っています。これら漁協の自主検査は2018年以降、毎年1万を超えて実施し、今では2万件近くになりました。

福島県海産魚介類における放射性セシウム濃度の推移（福島県の検査）

- 2015年度以降で基準値を上回ったのは4例のみです。
- 2017年度以降は99%で基準値の1割以下になりました。



ALPS処理水トリチウムのモニタリングについて

水産物の安全性と消費者の信頼確保のために、モニタリングを実施しています。令和4年度は精密な分析を行い、北海道から千葉県まで東日本の太平洋側を中心に実施。検出限界値は最大でも約0.4Bq/kg程度となりました。

令和5年度の放出後からは、採取場所は福島第一原発の放出口から北側4kmと南側5km程度離れた2地点で迅速分析を実施しています。

令和4年度からこれまで237検体分析し、現在、全てのサンプルでトリチウムは検出限界値未満となっており、放出前後で大きな変化は生じていないということが分かっています。これら検査結果は水産庁のホームページで見ることができます。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 概要

東日本大震災の被災地の水産物・水産加工品の認知拡大・販路拡大等を効果的に図るため、一般消費者向けの展示会でのPR、飲食店事業者や一般消費者向けに、ECサイト等での支援を展開し、複合的な利用促進活動を行っています。

■ 実施実績①

・ ECサイト等を活用した「売り場」づくり

一般消費者向け



UMIUMART

被災地の水産物・水産加工品を購入できるECサイト「UMIUMART」を運営し、被災県産水産物のPRや販売支援を行うことで、三陸・常磐地域の水産加工品の利用促進を図っています。



飲食店事業者向け



魚ポチ

昨年度に引き続き、「魚ポチ」とコラボし、特集ページを作成。被災県産水産物・水産加工品の販売支援及び利用促進を図っています。



2023年10月02日
新商品が大ヒット！八戸の老舗水産加工会社「マルヌシ」



2023年11月01日
マグロ一筋、約40年。世界の海から、旬のマグロを全国へ。「山養水産」

MICREED ミクリード

昨年度に引き続き、「ミクリード」とコラボし、特集ページを作成。被災県産水産物・水産加工品の販売支援及び利用促進を図っています。



東日本大震災で被災した「三陸・常磐」の水産加工品。被災地産水産物の認知拡大・販路拡大等を効果的に図るため、一般消費者向けの展示会でのPR、飲食店事業者や一般消費者向けに、ECサイト等での支援を展開し、複合的な利用促進活動を行っています。

「三陸・常磐のうまい水産加工品」をPRします。ぜひご覧ください。



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績②

- ・ 飲食店等とのタイアップフェア

一般消費者向け



うみうまフェア 飲食店コラボ

昨年度も好評であった飲食店とのタイアップフェア。今年度は首都圏・関西のほか、中部、北部九州の飲食店において開催しました。水産物を使ったメニューが提供できる業態（居酒屋、和食、イタリアン、フレンチ、カフェなど、和洋問わず）において、オリジナルメニューを作成し、PRしました。

第1弾＜2023年11月1日～30日＞

◆首都圏エリア（東京・神奈川）

- 株式会社バルニバービ（25店舗）
- 株式会社ヌエボ・ムンド（歓迎）（8店舗）

◆関西エリア（大阪・京都・兵庫・滋賀）

- 株式会社バルニバービ（25店舗）

第2弾＜2024年1月15日～2月14日＞

◆中部エリア（愛知等）

- 株式会社寿商店（4店舗）
- 株式会社かぶらやグループ（17店舗）
- 株式会社トラムスコープ（6店舗）

◆北部九州エリア（福岡・長崎）

- 株式会社鬼が島本舗（7店舗）
- 株式会社クロッシングインターナショナル（8店舗）
- 福岡・長浜屋台街（4店舗）



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績③

- ・ 飲食店等とのタイアップフェア 一般消費者向け



うみうまフェア FISH A WEEK コラボ ＜2023年11月1日～30日＞

キッコーマン株式会社が運営する魚のおかずや、野菜のデリなどを提供する「FISH A WEEK - 週一魚」とのタイアップフェアを初開催。店舗（イートイン、テイクアウト）以外に、デリバリー（Uber Eats／出前館）、キッチンカーでも東北の水産加工品を使ったメニューの提供を行いました。



提供メニューの一部



宮城県産金華サバのタンドリー
焼きイエロースパイシーソース



青森県産あんこうの西京焼き
大根おろし柚子胡椒ソース



青森県産帆立の
豆乳チャウダースープ



うみうまフェア 商店街コラボ ＜2023年11月1日～30日＞

今回初めて戸越銀座商店街とタイアップを行いました。寿司屋、焼き肉屋ラーメン屋、洋食、イタリアンなど多様なジャンルの飲食店において水産加工品を使ったオリジナルメニューの販売を行いました。



パンフレット



開催店舗の様子

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績④

- ・ 飲食店等とのタイアップフェア 一般消費者向け



かっぱ寿司コラボ ＜2024年2月8日～3月6日＞

株式会社カッパ・クリエイトが展開する大手すしチェーン店「かっぱ寿司」とのタイアップフェアを開催。東北被災地域の水産加工品を使用したオリジナルメニューを販売しました。通常フェアメニューの他、平日ランチ限定メニューも提供。店舗では、卓上POP、ポスター、のぼりなどを用い、フェアの露出をしていただくとともにCMも放送し、三陸常磐の水産加工品のPRを行いました。



フェアメニュー



平日限定ランチメニュー



店舗前の販促用のぼり

- ・ イベント参加等での認知度向上 一般消費者向け



全国ふるさとフェア2023 ＜2023年11月3日～5日＞

「全国ふるさとフェア2023」（横浜赤レンガ倉庫 イベント広場）へ出展し、岩手、宮城、福島、茨城地区の加工業者が自社製品の販売をおこなったほか、オリジナルメニュー（炊き込みご飯、みそ汁、キーマカレー等）の販売を行い、三陸・常磐の水産加工品のPRを行いました。



会場の様子



オリジナルメニューの一部

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績⑤

- ・ 産地ツアー 飲食事業者向け

三陸・常磐飲食店フェアに係る産地ツアー

うみうまフェア（飲食店フェア）を実施するにあたって、飲食店フェアに参加する飲食店従業員が水産加工食品の製造現場を見学するとともに、フェアで使用する水産加工品を使って開発したメニューを水産加工会社に説明しました。

第1弾 大船渡・陸前高田 ＜2023年10月5日～6日＞



第2弾 八戸・洋野 ＜2023年10月23日～24日＞



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績⑥

- ・ 料理学校等とのタイアップ



うまさ開発！高校生 うみうまレシピコンテスト

一般消費者向け

飲食事業者向け

料理専門学校「学校法人村川学園」との協業により、全国の高校・高等専修学校・高等専門学校に在籍する学生を対象とした三陸・常磐の水産加工品を使ったレシピコンテストを実施。全国26校144チームの中から鹿児島県のチーム「Kamimura」が最優秀賞を受賞しました。

■ 使用食材

①青森県

ポイルホタテ



②岩手県

いかそうめん



③宮城県

笹かまぼこ



④福島県

松川浦産あおさ



⑤茨城県（千葉県）

寒いわし水煮 缶詰



最優秀賞「いかそうめんと海鮮ムースのカダイフ風イカスミのソース」



調理の様子

ABC Cooking Studio タイアップ

一般消費者向け

料理学校のABC Cooking Studioにおいて、被災県産水産物への認知・理解を高め、喫食機会を創出、UMIUMARTでの購入機会に繋げるため、三陸・常磐の水産加工品の試食体験会を開催しました。また、季刊誌に記事を掲載することで読者に対してのPRを行うことで認知の拡大を図りました。



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績⑦

- ・ テレビ、CM、WEB、SNS等でのプロモーション

一般消費者向け

テレビCM

多岐にわたるプロモーション事業の核として、コミュニケーション活動をけん引するためのイメージキャラクターに「うみうまキャプテン」を据え、テレビCM等を通じてPRを行いました。



テレビ番組

仙台放送、とちぎテレビの番組で三陸常磐の加工業者をピックアップすることで三陸常磐の水産加工品とその地域についてのPRを図りました。

■ 仙台放送「三陸・常磐 うみうまトリップ」

三陸・常磐の海に育まれた海の幸を使って作られる、おいしい水産加工品＝「うみうま」をナビゲーターの八木亜希子さんがご紹介。



■ とちぎテレビ「カミナリのチャリ旅！」



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績⑧

- テレビ、CM、WEB、SNS等でのプロモーション

一般消費者向け



Webマガジン「MATCHA」とのタイアップ

日本の情報を発信する訪日外国人観光客向けWebマガジン「MATCHA」とのタイアップにより、実際に水産加工品が製造されている現場・周辺環境等の様子などを“うみうまの旅”として特集。記事は、動画を多言語(英語・繁体字・簡体字・タイ語・インドネシア語・日本語)で作成しました。



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

1. 復興水産加工業等販路回復促進指導事業

(6) 被災地水産物流通利用促進事業 プロモーション事業開催実績

■ 実施実績⑨

- ・ テレビ、CM、WEB、SNS等でのプロモーション

一般消費者向け

SNSを利用したプロモーション

ポータルサイト『UMIUMA』の公式Instagramを開設し、三陸・常磐から良質で味に自信のある、水産加工品を使ったレシピの画像や動画を定期的に更新しています。水産加工品を活用した「つくりやすく、おいしいレシピ」情報を提供することで、水産加工品自体の魅力を見出し、被災県産水産物・水産加工品の販売促進を図りました。



冷凍自販機の設置

<2023年10月 ~ 2024年3月>

三陸・常磐地域の水産加工品をより手軽に楽しんでもらうため、多くの人通りが期待できる東京駅地下1階 丸の内改札そばに、冷凍自販機（ど冷えもん）を設置しました。



02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

「売上回復」「販路回復」に向けて取り組む、東日本大震災にて直接的・間接的に被害を受けた水産加工業者等の皆様に対し、アドバイザー派遣や機器整備の助成等で支援いたします。

(1) 令和5年度水産加工業等販路回復促進取組支援事業 採択実績

令和5年度採択件数 40件 (第1次: 20件 第2次: 11件 第3次: 4件 第4次: 5件)

岩手県 (4件)

第1次採択

株式会社川秀

第2次採択

株式会社越戸商店

株式会社大濱正商店

第3次採択

有限会社コタニ

福島県 (1件)

第2次採択

株式会社夕月

千葉県 (10件)

第1次採択

株式会社大一奈村魚問屋

松岡水産株式会社

田原罐詰株式会社

有限会社鎌倉商店

株式会社やまきち水産

有限会社スズ市水産

第2次採択

株式会社イリヤマサ加瀬商店

株式会社兆星

第3次採択

有限会社大福商店

第4次採択

有限会社明石水産

青森県 (3件)

第1次採択

ぜんぎょれん八戸食品株式会社

有限会社マルコー田中商店

第2次採択

五戸水産株式会社

宮城県 (16件)

第1次採択

有限会社かみたいら

気仙沼ほてい株式会社

株式会社ヤマホンバイフーズ

水月堂物産株式会社

株式会社海幸

株式会社丸ほ保原商店

ぜんぎょれん食品株式会社

理研食品株式会社

株式会社ささ圭

第2次採択

株式会社齊吉商店

株式会社カネダイ

有限会社丸繁商店

水野食品株式会社

第3次採択

有限会社ヤマコ佐勇水産

第4次採択

株式会社マルカ高橋水産

①石森水産

茨城県 (6件)

第1次採択

株式会社島田商店

株式会社ぎょれん鹿島食品センター

第2次採択

株式会社谷藤水産

第3次採択

カクダイ水産株式会社

第4次採択

川崎水産有限会社

株式会社カネト

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第1次 (20件)

所在地		事業者	取組概要
青森県	八戸市	ぜんぎょれん八戸食品株式会社	海外産イカ等や国産小型サバを使用した新商品製造のため、機器・備品を導入し、新商品を量産し、売上回復を図る。
		有限会社マルコー田中商店	機器を導入し、塩辛の増産体制を構築し、また、金属探知機も導入することで、加工品全般の衛生管理強化にも繋げる。さらに、オリジナル商品及び新たなパッケージを作成し、販路回復を図る。
岩手県	山田町 下閉伊郡	株式会社川秀	原料不足が深刻化しており、それに代わる輸入イカとイクラの増産を行うための機器の導入を行い、さらに、ウニ、鮑の衛生基準確保と増産確保のため、機器を導入し、販路開拓、本格的生産に対応し、売上回復に努める。
宮城県	気仙沼市	有限会社かみたいら	他社または自社で製造している加工原料を全て自社で大量に製造できるようカット機械を導入し、安定的な原料確保を行い、製品の増産を図り、売上の向上に努める。
		気仙沼ほてい株式会社	多品種生産体制のさらなる躍進のため、さらに、省力化、作業効率化のため、機器を導入することで、雇用の維持も行き、多品種の生産が可能となり、増産を図ることで売上の拡大に努める。
	牡鹿郡 女川町	株式会社ヤマホンバイフーズ	原料サイズに捉われない安定的な工場運営をするため、今まで利用価値が少ない原料サイズやその端材等、さらに、多品種多品目の商品群から缶詰化をすることで、販路回復、売上増大を図る。
	石巻市	水月堂物産株式会社	増産を行うため、カットマシンを2式導入し、ほや炊き込みごはんの素1升用の生産を効率的に行い、売上回復を図る。また、多くの展示会への出展・商談活動等を実施することで、営業強化にも努める。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第1次 (20件)

所在地	事業者	取組概要
宮城県	石巻市 株式会社海幸	外部委託していた殻付かきの一次処理工程及び二次処理工程を内製化するために機器を導入し、原料から製品化へまでの一貫生産を可能にし、引き合いに対応することで売上回復を図る。
	株式会社丸ほ保原商店	生産性向上による省人化と包装資材費の削減を両立させるため、段ボールを箱折りし、めかぶパックを段ボールへ詰める作業等を一貫して行えるケーサーライン1式を導入し、震災前の売上へ回復することに努める。
	塩釜市 ぜんぎょれん食品株式会社	生産数量が安定している宮城県産養殖銀ザケの処理能力の向上、作業時間短縮のため、ヘッドカッター、ガッティングマシンを導入する。また、ボトルネックとなっている重量選別について、機器とともにマグロ・カツオ類等を国内外へ供給するべく凍結用魚缶及び保管用籠を導入し、売上増加に努める。
	多賀城市 理研食品株式会社	わかめの新商品の大量生産体制を構築するため、人海戦術で対応していた生産体制を機械化し、生産体制の向上、省力化、大量受注に対応できる包装機器の導入を行い、販路回復を図る。
	名取市 株式会社ささ圭	新たな商品開発と量産体制の構築のため、包餡機・製麺機を導入し、さらに生産の効率化のため、冷凍機器を導入し、他社との差別化が可能な商品の増産や新規商品の展開を行い、販路の回復を図る。
茨城県	うらすみが 株式会社島田商店	需要が高まっている食べきりサイズの小型少量パックでの提供を実現化するために、シール上下貼機・ターンテーブルを導入し、さらに、商品開発・販路開拓の専門家によるアドバイスを受け、ニーズにあったパッケージデザインに刷新することで、新商品規格開発と生産体制を整えることで販路の回復に努める。
	神栖市 株式会社ぎょれん鹿島食品センター	自動切身生産ライン機器類を導入することで外注を内製化し、事前予定発注に基づく計画生産が可能となり、新商品の開発や受注への対応を行い、売上回復を図る。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第1次 (20件)

所在地		事業者	取組概要
千葉県	銚子市	株式会社大一奈村魚問屋	既存のサバ・ブリ類のフィーレ加工ラインに加え、小型のサバ・イワシ類に対応した加工機器を導入することにより、新商品の開発及び既存品を含めた販路拡大、売上増に努める。また、取引先から求められている衛生管理を行うため、シートシャッターを導入し、販路回復を図る。
		松岡水産株式会社	顧客要望の強い煮魚・焼魚製品の新たな商品開発・生産を行うため、過熱水蒸気調理装置、それに伴うボイラーを導入し、生産効率向上、及び品質の向上を図り、対応できなかった注文に対応出来る体制を整え、販路回復に繋げる。
		田原罐詰株式会社	製品歩留まりをあげ労働力不足を補うために増産対応機器の導入、大量に供給できるようにするための調味料タンクの導入を行い、効率的に生産を行うことで増産を図り、さらに、新たな機器を導入することで衛生面も重視した新製品を開発し、販路回復に努める。
	旭市	有限会社鎌倉商店	煮干しを製造する際に使用する冷風乾燥設備に付随する機器として、魚を乾燥させるために使用する乾燥用台車を導入し、さらに、シラス製品を製造する際に使用する釜茹で用ボイラーを導入し、売上回復に努める。
	山武郡 九十九里町	株式会社やまきち水産	手作業で行っているパン抜き後の製品積み作業を自動化するための省人化機器と、前浜から多くの魚を買える体制を整える機器を導入することで、別作業を同時並行で行えるようにし、国内外の注文に対応して販路回復を図る。
	南房総市	有限会社スズ市水産	品質向上、効率化・省人化を図るため、冷凍車、自動砕氷供給機及びローラーコンベアを導入することで、南房総の鮮魚・鮮魚加工品の鮮度をアピールし、出荷量を増産させ、販路回復を図る。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第2次 (11件)

所在地		事業者	取組概要
青森県	八戸市	五戸水産株式会社	製造工程の省力化・増産化のためにミートチョッパーを、包装工程の省力化と個包装に対応したシーラー機を導入し生産効率を改善する。また、常温から冷蔵品目の売上拡大も見込み冷蔵冷凍タイプの自動販売機を増設する。これらにより注文に対応できる体制を整え、売上回復を図る。
岩手県	下閉伊郡 普代村	株式会社越戸商店	人手・時間を要していた洗浄工程に高圧洗浄機を導入し、効率化を図る。また、フォークリフトを導入し、作業の効率化のみならず区画ごとに異なる機器を使用することで衛生的に作業を行うことへ繋げる。さらに、スリットカーテンを導入することで、異物混入を防ぎ、品質の向上および販路の拡大に努める。
	宮古市	株式会社大濱正商店	ボトルネックとなっているシール作業を効率化するオートシーラーの導入を行うとともに、端材等を活用した簡単で美味しい商品の商品開発を行うためにスチームコンベクションオープンの導入を行い、工場の生産性を向上させるとともに、新たな加工品の展開を図り、販路回復に努める。
宮城県	気仙沼市	株式会社斉吉商店	干物製造に必要な塩水漬けタンクやキャスター作業台、さらに干物専用の熟成乾燥機を新たに導入することで、衛生的且つ安定的な干物の製造体制を構築し、売上回復に努める。
		株式会社カネダイ	現在の生産状況では生産効率が悪く、人手がかかるため自転公転式加熱攪拌機を導入するとともに、その生産数量に見合う充填機を導入し、生産性の向上と省人化を図り、スープ製品の売上を拡大させ販路の回復を図る。
		有限会社丸繁商店	新たな顧客層を取り組むべく専門家の知見を活かしマーケティング戦略に取り組みとともに、省人化、製品の品質を高めるため、現在人力で行っている選別作業を自動化できる設備機器の導入を行い、既存取引先の売上拡大、新規販路の拡大を行い、販路の回復を図る。
	石巻市	水野食品株式会社	包装機を追加し生産性の向上、商品・規格等の多様な包装に対応できる深絞り包装ラインを導入する。また、新商品開発を行うため、工場生産効率改善に向けて、省人化機器の導入を行い、販売先に対し対応できなかった注文に対応できる体制を整え、販路回復を図る。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第2次 (11件)

所在地		事業者	取組概要
福島県	いわき市	株式会社夕月	85gの板蒲鉾の生産能力をアップするため、従来ある蒸し機に既存のリテーナ缶に新規に特注のスパーサー等を取り付け、需要に対応できる生産体制を構築し、取引先の注文に対応し販路回復を図る。
茨城県	東茨城郡 大洗町	株式会社谷藤水産	自動高圧洗浄機を導入し、洗浄作業の時間を大幅に短縮させ、その人員をみりん干し等の製造工程に再配置することで生産量増加につなげ、洗浄工程の省人化及び衛生面の向上、さらに製品の増産体制の構築を図り、既存取引先だけでなく新たな販路を開拓して売上の増加を図る。
千葉県	銚子市	株式会社イリヤマサ加瀬商店	段ボール箱での冷凍加工品の生産を増やすため、新たに箱入れ用定量器とコンベアを導入し、選別から凍結までを自動化し、大幅な省人化と生産性の向上を図り、単価の高い段ボール箱での冷凍加工品の生産を増やすことで、売上回復を図る。
		株式会社兆星	要望のあるマイワシ等を用いたパン粉付け商品、寿司ネタ等フィレの新商品開発・製造販売のため、イワシ開きライン、イワシフィレライン、自動パン粉付け機、リキッドフリーザーを導入し、販路回復を図る。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第3次（4件）

所在地		事業者	取組概要
岩手県	大船渡市	有限会社コタニ	作業の軽減や省人化・効率化を図り、販売増に見合う生産体制構築のため、包装機、色彩選別機等を導入するとともに、機械化できる商品については機械化を進め、さらに、手作りのできる付加価値商品の製造を行いつつ、売上増加に努める。
宮城県	石巻市	有限会社ヤマユ佐勇水産	今まで注文に応じきれなかった販売先の注文に対応するため、センターカット機、深絞り真空包装機等を導入し、増産体制を構築し、売上増を図る。また、新規に地元魚の取扱も増やし、販路を回復し、売上確保に努める。
茨城県	なはた市	カクダイ水産株式会社	国内外の冷凍原料の買付を増やし、鮮魚の冷凍加工を増加させるとともに、冷凍機及び既存の加工機器を安定的に稼働できる体制を整えるため、冷凍機等を導入し、販路拡大を図り、売上回復に努める。
千葉県	鋸安房町	有限会社大福商店	一次加工品の注文が増えていることや顧客の求める製品規格に合わせるため原料サイズの汎用性や利便性が良く、処理能力の高いフィレーマシンの導入を行い、売上回復に努める。また、ホームページも作成し、スマホから検索されやすいページとし、知名度を向上させ、販路拡大に繋げる。

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(2) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 採択事業者一覧

■ 第4次（5件）

所在地		事業者	取組概要
宮城県	石巻市	株式会社マルカ高橋水産	包装までの時間の短縮、封味効果の向上、増産のため、ブラストチラーを導入する。このことより、衛生管理面での強化ができ、引き合いに応じられる生産体制を構築でき、販路回復、売上回復に努める。
		①石森水産	冷却水循環装置及び貯水槽を導入し、水揚げが増えているカレイ、ヒラメ、カニ等の魚種を中心に取扱いを増やし、夏場においても活きの良い活魚出荷、鮮魚出荷、鮮魚加工が行える設備を整え、販路の拡大を図る。
茨城県	北茨城市	川崎水産有限会社	アレルギー物質、その他異物の混入防止を徹底するため、選別機能を有する異物取り型対応煮沸釜を導入し、選別能力を向上させるとともに、顧客のニーズに合った高品質の製品の増産を行い、大手取引先の販売網で販売し売上回復を図る。
		株式会社カネト	選別精度を向上させ、さらに増産体制を構築するため、原魚選別投入コンベア及び製品選別ラインを導入した。このことにより、製品の品質安定が向上し、さらに生産工程の機械化により現状の人員でも増産が可能になることから、より積極的な営業を行うことが可能となり、売上回復に努める。
千葉県	銚子市	有限会社明石水産	市場から依頼されているフィレ等の製造を拡大するため、人員を増やさなくても増産が可能な三枚卸機を導入する。また、サバ以外にホッケ等も加工可能であり、顧客の要望があれば国産及び輸入原料等多魚種を加工し、販路回復を図る。

※ 本事業は、復興水産加工業等販路回復促進事業実施要綱（平成23年11月21日付け23水漁第1445号農林水産事務次官依命通知）に基づき実施する国庫補助事業です。



2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(3) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 取組事例

① 高付加価値商品の増産化による販路および売上拡大

有限会社かみたいら

■ 課題点

- ・ ホタテ、カキ、ワカメ等の鮮出荷や加工販売をおこなっている。
- ・ 東日本大震災では、水揚げの本格再開に約1年を要したため、多くの販路を失ったうえ、原発事故の風評被害も重なり、売上が低迷した。
- ・ 震災後は限られた原料で売上回復を目指すため、高付加価値商品の製造に力を入れてきた。
- ・ そういった取り組みの中で開発された「ピリ辛茎わかめ」という加工品が好評となり、取引先より販売エリア拡大の打診があるが、原料となる3mmカットの塩蔵茎わかめの製造には特殊な加工技術が必要となり、これ以上の増産が難しく販売機会の損失が生じていた。

■ 改善に向けてのポイント

- ・ 特殊な加工技術が必要な原料のカット工程に機器を導入し、他社に依存することなく自前で安定的な生産をおこなえるようにする。

■ 取組概要

ボトルネックとなっている原料加工の工程に機械を導入し、増産体制を構築する。

■ 取組による成果

- ・ 原料の増産を行うため、若布茎等細切り機を導入。その結果、若布茎を縦幅40mm、横幅3mmサイズにカットした場合、従来は1時間あたり2名で5kgの製造量だったものが、同じ時間で1名で20kgまで増産できるようになった。
- ・ 本製品の製造量を増加させることができたことにより、現在販売している宮城県エリア以外の地域にも販売できるようになり、販路が広がった。



若布茎等細切り機



増産が可能になった「ピリ辛茎わかめ」

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(3) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 取組事例

② 好評となっている新商品の増産化による売上拡大

理研食品株式会社

■ 課題点

- ・ 東日本大震災で被災し休業していたことによる販路の縮小、原発事故による風評被害、震災後の人手不足等が重なり、売上が回復できていない。
- ・ 震災後、わかめを主とする乾燥海藻製品についてラインナップを充実させ売上回復に努めているなかで、新商品として開発した「ふりかけるザクザクわかめ」というザクザク食感の即食タイプの味付わかめが好評を得て、想定を大きく上回る注文をいただくこととなった。
- ・ この商品に商機を見出し増産を考えているが、現設備では充填時の袋口の開封作業を人手に頼らなければならず、量産化が困難となっていた。

■ 改善に向けてのポイント

- ・ 市場投入した新製品の増産体制を整えることで、機会損失を防ぎ、売上回復につなげる。

■ 取組概要

包装工程を機械化し、省力化して受注に対応できる増産体制を整える。

■ 取組による成果

- ・ 省力化と受注に対応できる体制を構築するため、混合機、自動計量供給機ライン、金属検出器、給袋包装機ライン、搬送コンベア、異物検査・重量選別ライン、ターンテーブル、封函機、段ボール箱用印字機、及び段ボール箱用検査カメラを導入。
- ・ その結果、計量～包装～検査まで一貫したラインになったことで、従来9名必要だった人員が6名に省人化でき、1日あたりの生産量も従来比4,200パック増を実現。機器の導入によって、販売チャンスを逃さず、販路拡大をはかることができた。



自動計量供給機ライン



給袋包装機ライン



「ザクザクわかめ」



2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(3) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 取組事例

③ 生産体制の効率化による売上拡大

田原罐詰株式会社

■ 課題点

- ・ サバ、サンマ、イワシ等の青魚を中心に水産缶詰等の製造をおこなっている。
- ・ 東日本大震災では、東京電力の原発事故以降、巻網船の操業が1年以上に渡り停止したこと、風評被害も多くあったことなどから、営業再開後も販路の回復は難しく、労働人口も大幅に減ってしまったため、震災前の売上までなかなか戻らずにいた。
- ・ 売上の回復を目指し、新商品の試作もおこなっているが、既存の設備では生産能力が頭打ちのため、本格的な生産ができずにいた。

■ 改善に向けてのポイント

- ・ 限られた原料を有効に使うため、製品歩留まりをあげ、労働力不足を補いながら、増産体制を構築する。

■ 取組概要

衛生面や歩留まりの向上、省人化を図ることで生産体制を効率化する。

■ 取組による成果

- ・ 醤油タンクの導入で生産効率があがったほか、不純物が混入しない仕組みになり、安全衛生が強化された。
- ・ 解凍機（2式）については、原魚を1日約14トン解凍した時した場合、従来は7時間で6名でおこなっていた作業が、同時間で4名で済むようになった。また、特にイワシに関して解凍時の原料の傷みも減少し、歩留まりが約10%上昇した。
- ・ ヘッドカッター（2式）及び搬送コンベアは、イワシ、サンマを1日約3.5トンカットした場合、従来7時間で8名必要だった作業が同時間で6名でおこなえるようになった。ヘッドカッターの性能が上がったことで、廃棄する原料が減少し、歩留まりが約10%上がった。
- ・ 生産体制の効率化により、端材を利用した大西洋さばの水煮・みそ煮、ノルウェー産サーモン水煮の新製品を実際に量販店へ納品することができた。



解凍機



ヘッドカッター（2式）及び搬送コンベア



2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(3) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 取組事例

④ 既存商品の増産体制の構築による売上拡大

有限会社明石水産

■ 課題点

- ・ サンマ、ホッケ、サバ等を中心に鮮魚や業務用水産加工製品の製造をおこなっている。
- ・ 東日本大震災では福島第一原発事故の風評被害の影響を受けたほか、長期間の試験操業を余儀なくされ原料の供給が途絶えたことで、売上は大きく減少した。
- ・ 売上回復に取り組む中で、輸入原料を使ったフィレ商品の需要が高まっており、売上増の兆しが見えてきているが、現状の機器では製造能力が限界になっているほか、震災以降の人口減少が顕著であり、これ以上の増産が望めず、売上回復が滞っていた。

■ 改善に向けてのポイント

- ・ 省人化機器を導入することで、限られた人員でも増産できる体制を整える。

■ 取組概要

機器の導入により、サバフィレ・文化干し等の量産化を図る

■ 取組による成果

- ・ 増産体制を構築するため中型三枚卸機を導入。その結果、サバフィレ・サバ文化干しを製造した場合、導入前より時間当たり25%増産することでき、また、人員も従来の20人が導入後18名と省人化が実現できたことで、1人時間1時間あたりの製造量は38%向上した。これにより、注文に対応できる生産体制ができたため、売上の増加を実現することができた。



中型三枚卸機



量産が可能になった文化干し



2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

(3) 令和5年度水産加工業等販路回復取組支援事業 取組事例

⑤ ボトルネックとなっていた手作業工程の機械化による増産体制の構築

株式会社やまきち水産

■ 課題点

- ・ 東日本大震災によって施設や設備に大きな被害を受けたほか、震災による原発事故等の影響により、約1年半水揚げが大きく減少。加えて、風評被害もあり、主な輸出先であるエジプトやナイジェリアなどに出荷できない時期が続き、現在も尚、売上回復をしきれていない。
- ・ また、震災後の労働力不足は現在も続いており募集は随時行っているものの、必要人員が集められず、水揚げが連続してあると人手が足りず、処理ができないため、原料の買付もできず、販売機会損失となっている。

■ 改善に向けてのポイント

- ・ 人手不足の中、手作業で行っているパン抜き後の製品積み作業がボトルネックとなっているため、機械化をおこない、省人化することで、前浜から多くの魚を買える体制を整える。

■ 取組概要

冷凍パン抜き後の製品積み作業を機械化し、効率化することで増産体制を整える。

■ 取組による成果

- ・ 省人・省力化のため、自動製品積み機ライン、イントラベルトコンベアを導入。その結果、サバ・イワシ等の凍結向け加工品を1日80トン製造した場合、従来、パン抜き後の製品積み作業には5名の作業員が必要だったが、1名にまで省人化するできた。
- ・ また、この4名の余剰人員を冷凍パン抜き作業に配置できるようになったことで、連日、前浜に揚がっても買付を行えるようになり、増産体制を構築することができた。



自動製品積み機



押し込み装置

02 復興水産加工業販路回復促進センターの活動



復興水産加工業
販路回復促進センター

2. 水産加工業等販路回復促進取組支援事業

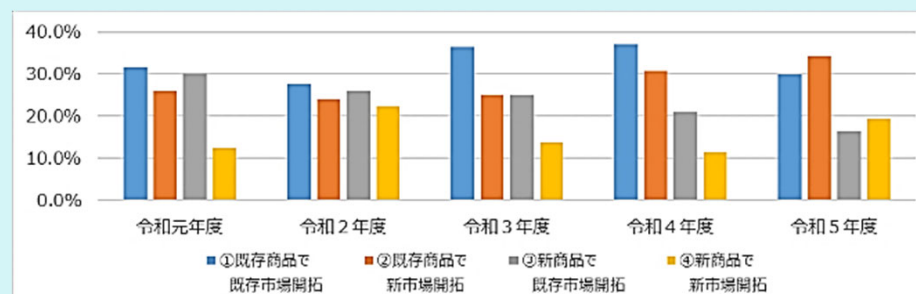
(4) 販路回復の取組方法について

令和5年度に採択された40社について、販路回復の取組方法として一番多かったのは、「②既存商品で新規市場開拓」となった。変わらず既存商品での販路回復を試みる事業者は多いが、今年度は例年と違い、既存の取引先向けではなく、新たな市場に挑戦する傾向がみられた。

販路回復の取組方法について

販路回復の方法	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
①既存商品で既存市場開拓	31.5%	27.8%	36.4%	37.1%	29.9%
②既存商品で新規市場開拓	26.0%	24.1%	25.0%	30.6%	34.3%
③新商品で既存市場開拓	30.1%	25.9%	25.0%	21.0%	16.4%
④新商品で新規市場開拓	12.3%	22.2%	13.6%	11.3%	19.4%
⑤その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(注) 販路回復方法について、複数の計画があるため、その累計で算出



令和5年度支援事業の助成対象費目の中で一番多かったものは「②販路の回復・新規創出のために必要な機器、資材等」、次いで「③労働力不足、経営改善に不可欠な省人化等のために必要な機器」が続いた。

この二つの項目で全体の8割ほどを占める結果となった。消費動向の変化に伴う新商品開発、増産や効率化、被災地域での人口流出および高齢化等の影響を受けての省人化対策が共通の課題となっていることが伺える。

分析結果を踏まえ令和5年度の支援事業の傾向を見ると、震災後からより顕著になった労働力不足という課題を抱えながらも、機会損失が起こらないよう限られた人員でも増産を可能にするため、機器整備等の対策を講じながら、新たな市場を開拓し、「既存商品を新規市場に対し販売する」とにより販路回復を図ろうとする事業者が多くなってきていることが読み取れる。

助成対象費目について

助成対象費目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	対前年差
①新商品開発等のために必要な加工機器の導入経費、資材費等	20.6%	23.9%	12.8%	12.0%	14.5%	2.5%
②販路の回復・新規創出のために必要な機器、資材等	18.6%	41.3%	36.2%	40.0%	49.1%	9.1%
③労働力不足、経営改善に不可欠な省人化等のために必要な機器	28.4%	26.1%	36.2%	42.0%	29.1%	-12.9%
④冷蔵庫保管経費及び倉庫等保管経費	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑤原料調達に必要な運送経費	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑥マーケティング調査経費	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%
⑦コンサルティング経費	6.9%	0.0%	2.1%	0.0%	1.8%	1.8%
⑧商談旅費、展示会出展経費等	12.7%	8.7%	10.6%	4.0%	1.8%	-2.2%
⑨新商品開発支援経費	8.8%	0.0%	2.1%	2.0%	1.8%	-0.2%

(注) 助成対象費目については1社で複数の費目への申し込みがあるため、その累計で算出

03 お問い合わせ先

東日本大震災の被災地における水産加工業等の復興を支援し、販路回復に取り組む水産加工業者等の皆様をサポートします。具体的な事業内容や取組支援事業の募集の時期等については下記センターまでお問い合わせください。

(代表機関) 全国水産加工業協同組合連合会

TEL : 03-3662-2040 FAX : 03-3662-2044 メール : hanro-info@zensui.jp

復興水産加工業販路回復促進センター ホームページ

復興販路回復センター

検索

セミナー・展示会の開催情報やレポート、売上回復や販路開拓に向けて頑張っている水産加工業者の紹介、独自取材記事など被災地の水産加工業者等の皆様に有益な情報を提供しています。復興水産販路回復アドバイザーによる販路回復の指導申し込みや、助成事業に必要な書類のダウンロード等もこちらのサイトで行うことができます。



<https://www.fukko-hanro.jp/>



復興水産加工業販路回復促進センター

(代表機関) 全国水産加工業協同組合連合会

TEL : 03-3662-2040 FAX : 03-3662-2044

公益社団法人日本水産資源保護協会

TEL : 03-6680-4277 FAX : 03-6680-4128

一般社団法人大日本水産会

TEL : 03-3585-6681 FAX : 03-3582-2337

東北六県商工会議所連合会 (事務局 : 仙台商工会議所)

TEL : 022-265-8129 FAX : 022-217-1551